

## 令和4年度 第3回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 令和5年3月15日（水） 午後1時30分～3時

場 所： 新潟市万代市民会館 307・308研修室

出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員

石原委員、塩沢委員、高橋委員、多田委員、田中委員

事務局（男女共同参画課）

笹川課長、竹田課長補佐、三間主査、大塚職員、弦巻職員

### 1 開会

### 2 男女共同参画課長あいさつ

### 3 報告

#### (1) 令和4年度事業報告（11月～3月開催事業）

（事務局） 各担当より主催事業の報告

（高橋委員） アルザの企画委員をしているが、No.5「ジェンダーで社会を考える講座」の講師の旅費予算が削られて、講師を3回対面で呼ぶことができなくなったと聞いている。来年度もそうなるのではと思うが、なんとかならないか。

（竹田補佐） 市全体の予算が削減の方向ではあるが、それだけでなく、このコロナ下でオンラインの取り組みが進んでいるということもある。来年度もオンラインを活用しながら、予算の範囲内で県外の講師の方をお願いしていきたい。

（塩沢委員） No.6「再就職支援講座」は県と共催で県女性財団に委託をされたとのことだが、個別相談会の結果はあるが、セミナーの結果がない。セミナーの部分の共有はしないのか。

（三間主査） どちらも共催であるが、セミナーは県、個別相談会は市が主で行っている。県にアンケート結果をいただくようお願いしたが、まだできていないという回答だったため、今回お渡しすることができなかった。セミナーの参加人数は聞いており、第1回は27人、第2回は32人、第3回は11人、延べ人数は70人。先ほど、ニーズに合ったおかげか昨年度よりも参加者が多かったと説明したが、昨年度の38人に比べて今年度は倍近い参加者になり、よいセミナーが開催できたと思っている。

（塩沢委員） No.3「女性の起業を支援する講座」とNo.6「再就職支援講座」のつながりと位置づけはどうなっているのか。再就職講座を起業講座とつなげるという考えはあったのか。つなげていくべきと思うが、どう考えているのか。

（竹田補佐） まず、女性のための就労支援として起業と再就職の講座を行っているが、起業については起業に関心のある方を対象に市で独自で開催し、再就職についても令和元年度までは市で独自で開催していた。県でも同じような内容で再就職講座をアルザに近いユニゾンプラザで行うようになったため、県と共催で実施するようになった。セミナーは県が実施し、市ではセミナーに参加された方などが個々で聞きたいことを相談するための個別相談をセミナーとつなげる形で実施している。

再就職を希望される方は再就職の講座に参加していただき、また、毎年、起

業講座も独自で行っているので、起業に興味のある方はそちらに参加していただければと考えている。

(塩沢委員) 今年度はそのように分けられたということであった。

(石原委員) 3つの事業についてコメントをさせてもらう。No.1「女性の生き方講座」は、体について焦点を当てたということで、例えば生理、更年期など、なかなかこれまで語り合うことが少なかったテーマを取り上げていて興味深く、とても大切な講座だったと思う。一方で参加者がやや少なかったという話があったが、平日ということもあるほか、まだまだ世の中にこういう場で語り合ったり、場に行くこと自体に抵抗感を感じられる人がいることの表れなのだろうなど思っている。こういう事業が続くことによって、そうした意識が変わっていくことにもつながればよいなという印象を持った。

次がNo.4「男性の生き方講座(定年期)」は、満足度は85%と事業の中では少し低い数字になっている。定年前後の男性に参加してほしいという講座だったと思うが、認知症や介護保険のテーマは割とすでに男性も参加されている内容なので、このテーマでどうして定年前後の男性がターゲットになるのかなというのが少し分かりにくいなと思った。おそらく、今、介護などを担っているのが圧倒的に女性だからという問題意識からだと思うが、男性の生き方ということであればもう少しテーマを工夫した方がよいのではと感じた。

最後にNo.14「男女共同参画講座4(SDGs ジェンダー平等展)」は最後の説明にあった次年度の取組予定についてはどういう意味か。

(竹田補佐) 今回はイオンモール新潟南で展示をさせていただいたが、来年度は市などが実施する人が集まるイベントの機会にこのような展示をさせていただく方法もどうかと考えている。

(石原委員) そのようにされた方がよいかなと思う。

(田中委員) No.1「女性の生き方講座」とNo.4「男性の生き方講座(定年期)」は大変よい講座だと思ったが、女性だけ、男性だけという作りになっているので、私の個人的な考えとして聞いてほしいが、生理や介護については夫婦で参加して、二人で聞く、同じ情報を得て、これから来るであろうこと、今起きていることに二人で向き合うきっかけのような形になるとよいとアンケートを読んですごく感じた。たぶん別の講座になるのかもしれないけど、ここに参加した人が次にお連れ合いを連れてきてという形になるとよいと思った。そうでないと「片方だけの知識が増えて、伝えるにも関心がないから伝えられない」という公民館のゆりかご学級によくあるパターンで、ジェンダーのことを知ったけど夫は聞いてくれないといったことが起こってしまうのかなと思った。それが工夫できるとよいと思う。

No.6「再就職支援講座」の感想の中で、「女性と年齢の壁を能力の開発によって乗り越えていきたい」というコメントがあった。おそらくそこに参加された方の声はすごくリアルでよいものだと思うが、そこに上がってくる声を経営者の方たちが知らなければと思う。このような講座で上がってくる声を経営者の方などに共有する術はないだろうかと考えた。

No.16「登録団体交流会」はカルタがよいと思った。調べたら県内では柏崎、県外では福岡や長野などいろいろな所で行っているようなので、自分でも作ってみたいと思った。大変面白い企画だと思った。

(多田委員) No.4「男性の生き方講座(定年期)」は、資料の企画委員の振り返りで「男女共同の視点が少なかった」ということが書いてあった。アンケートを見ると認知症のことや介護施設などの内容をたぶん充実して話されていたと思うが、せっかくアルザの講座なので、例えば「パートナーだったらどう考えるか」などを講座の中でライフプランとして入れられていたのか聞きたい。

(竹田補佐) 講師には打合せ時に認知症や介護の内容に男女共同参画の視点を入れていただくようお願いし、講座に入れてくださっていたが、委員が言われたように設問に入れるなど明確な形でないと、参加者の方からはなかなか分かっていただけでいなかったの、そこは反省点だと思っている。定年期の男性を対象にした講座は、参加者の方に興味を持っていただけるような内容でそこに男女共同参画の視点をどう入れていくかが、毎年、講座を企画する時に苦慮している所で、意識的に設問に入れてもらうなどもっと工夫するようにしていく。

(塩沢委員) No.1「女性の生き方講座」で性の問題を取り上げたのは、やっとりプロを言葉だけじゃなくて講座で行うまでになったという気はした。今、性の問題で問題になっているのはLGBTの問題であるとか多様性の問題が入ってきていると思っているが、改めて第4次男女共同参画行動計画を見たが性の多様性は入っていないので、そこに限定されてしまったのかなと思う。アルザの講座はそこに拘らずに踏み込んで提起してほしい。そういった視点をもって踏み込む講座というのがあってもよかったと思う。今回、とてもよい機会だったので、この路線を継続してほしい。

また、資料の企画委員の振り返りで政治が書かれていたが、今、世界の中で日本の女性の政治参画が遅れていると盛んに言われているし、また先日、県女性財団で駒澤大学の先生をお招きして講座があったが、政治学の視点から女性の政治の参画はなぜないのかという内容でとても良い講座だった。入門編でもよいので女性の社会参画の一環として政治も扱ってほしい。今、直面している課題に着手するというのをアルザとしては意欲的にやっていただきたい。

(高橋委員) いずれの講座も回数が多くて3回で深い内容にならないと思うが、もし深い内容が必要だということになれば年間通して10回とか、そのような講座があってもよいのかなと思う。

(塩沢委員) アンケートの設問で「講座を何で知ったか」では、「アルザのホームページから」が少なかった。私もアルザのホームページを探すがなかなか見つからない。なんとかならないか。

(竹田補佐) 市のホームページのトップページの中はレイアウトが決まっているので、アルザのページを見つけやすくするのは難しい。市のホームページで「アルザにいがた」と検索していただくとアルザのページが出てくるので、その方法でお願いしたい。

## (2) 男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

(事務局) 担当より事業の報告

(田中委員) No.2「ファザーリング・ジャパンにいがた」が実施した2講座は、アンケートを見ると性別が夫婦ふれあい整体教室は女1、男5、わくわくエンジン発見教室は女5、男1となっているが、説明では夫婦で参加がメインと聞いたが夫婦参加が少ないように思うがどうなっているのか。

- (三間主査) アンケートの回収方法ややり方がよくなかったのかなと思う。夫婦と一緒に1枚のアンケートを回答し、妻がアンケートを出している夫婦が多かったのも、そのような結果になっている。今後、気をつける。
- (田中委員) 夫婦での参加は何組か。
- (三間主査) 夫婦ふれあい整体教室は、夫婦参加の申込みは9組で、お子さんの具合が悪い方などもいらっしやって当日は6組の参加だった。
- (田中委員) No.3の「防災カフェ in にいがた」では、第2回はゲストの方々が女性だったので、女性の視点から防災について語っていただけたのだろうと思うが、第1・3回は女性の参加者が多く、男性が少ない。防災の中での男女共同参画の部分はどのくらい講座の中で参加者に感じていただけるように工夫されていたのかというのが、アンケートでは見えてこなかったのも詳しく教えてほしい。
- (三間主査) ご指摘いただいたように男女共同参画の色が強いかということとそこまでいう所もあるが、防災において避難所の設営などで女性の視点が大事だということは講師の方には伝えていただいている。バッククッキングは内容としてはそれが前面に出ていないが、より工夫して、例えば女性には「やり方が分かったから、率先して自分がやるのではなく、男性にも女性にもやり方を教えるつもりで覚えていってください」と強く促すとよいかと実際に講座を見ながら思った。今後、こういう内容とするならば、そのような視点でも実施してもらうように促そうと思っている。

### (3) アルザフォーラム2022について

- (事務局) 開催状況報告
- (高橋委員) ワークショップの項目を見ると必ずしも男女共同参画やジェンダーと関わりがないものもあるが、関連するワークショップをやってもらいたいという縛りはないのか。
- (三間主査) 募集の段階では男女共同参画の推進という理念に沿ったものをお願いしているが、審査等は具体的には行っていない。各団体には趣旨を説明して、実施してもらっている。
- (竹田補佐) ご意見のとおり男女共同参画の視点が薄いと思われる団体もある。ワークショップを募集する際は各団体に趣旨の説明をしておき、各団体の皆様はご理解いただいた上で、申込みいただいていると思うが、団体によっては男女共同参画の視点が薄い年もある。引き続き、団体の皆様には男女共同参画に関する内容にさせていただくよう話をしていく。
- (石原委員) 先ほどコメントをさせていただいた「男性の生き方講座(定年期)」に関連するが、ワークショップの中の斎藤医師が講師をされた「老耄の果て」のような視点が盛り込まれていれば定年期の男性を対象とした講座でもしっくりくるのではないか。
- (竹田補佐) 認知症や介護の医療的な部分だけではなく、こういった生き方といった部分も入れていくことは、委員がおっしゃるとおりで、参考にさせていただきたいと思う。
- (塩沢委員) にいがた女性会議の介護・自立部会は斎藤忠雄医師に継続してお願いしていて、おそらくワークショップは3年目くらいだと思う。最初のうちは具体的な症状例だとかそのもの話から、だんだん視点が深まっていった。繰り返して

同じことを切り込んでいくうちに主催する側も、話をする側もだんだん話の中身が膨らんで視点が豊かになっていったかなと思う。

(竹田補佐) 「男性の生き方講座(定年期)」の企画委員の振り返りでも、「1回1回だとなかなか深まらない」などという意見もあった。「各回違うテーマではなく、2回同じテーマで深めていく」というやり方も含めて、来年度、企画委員の方と考えていきたいと思う。

#### 4 令和5年度主催講座について

(事務局) 主題講座説明

(石原委員) 「メディアリテラシーについて考える講座」についてだが、ジェンダー表現についてメディア業界でも急激に見直しの動きが進んでいる。たぶん今年と昨年ものを比べても全く違うし、「意識が変わらなくては」ということで、各社ともかなり見直しの動きが進んでいるので、業界の一員として、メディアが古いとかそういうことではなくて、そうした変化の動きも知ってもらえるようなものになるとありがたい。

#### 5 その他

(塩沢委員) 自分の回りの方で、講座の感想などを知りたいという要望がある。運営委員会の資料を全部公表することは難しいと思うが、情報室で講座の感想を含めた内容が分かるようにならないか。

(竹田補佐) 市のホームページに運営委員会の資料を掲載し、市政情報室にも資料を設置しているので、運営委員以外の方でもご覧いただくことができる。

(事務局) 新年度の運営委員会の第1回目は6月下旬頃の開催を予定している。あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。